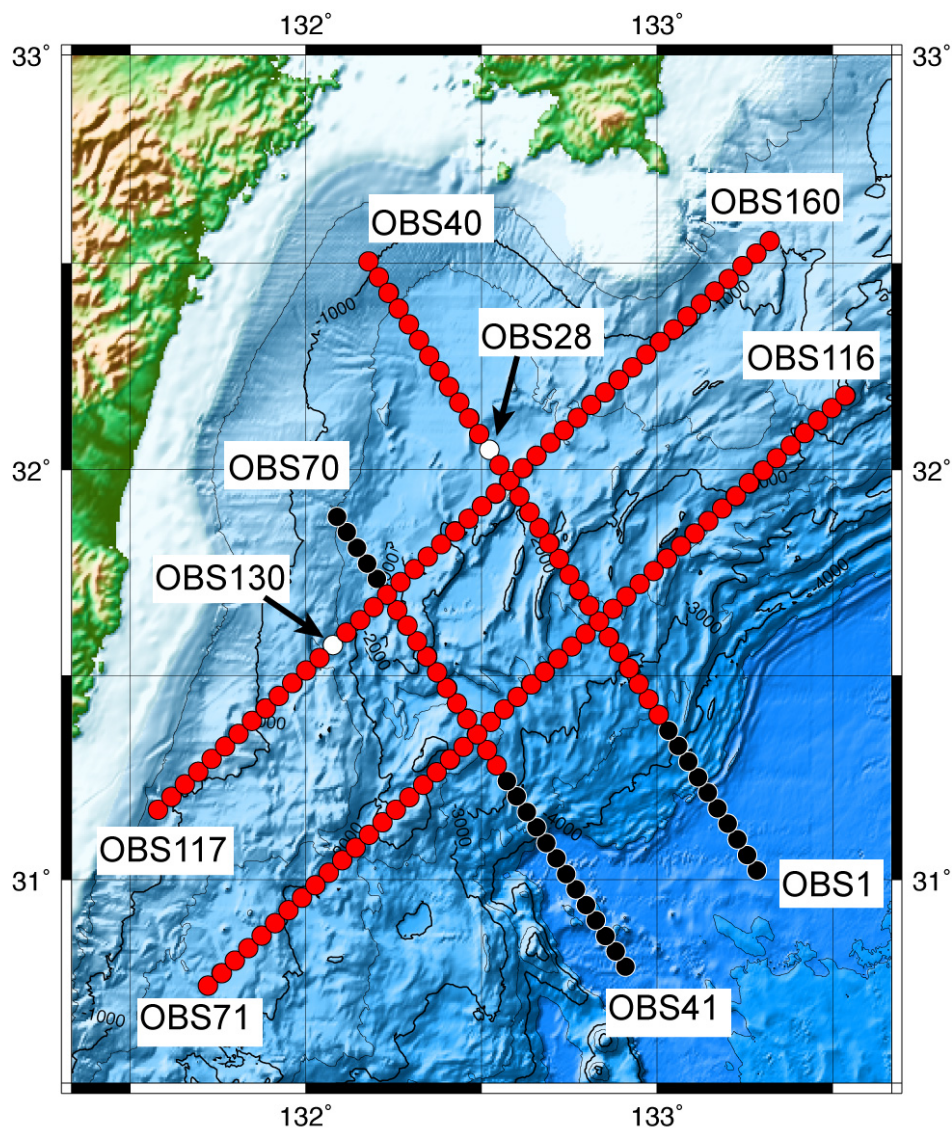


クルーズサマリー

1. 航海情報：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY09-E01・かいよう
- (2) 航海名称（実施要領書名）：
平成 20 年度「日向灘における地震探査および自然地震観測調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：尾鼻浩一郎・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 研究課題名：
受託研究「南海トラフ巨大地震連動性評価」
- (6) 航海期間・出港地～帰港地：
平成 21 年 1 月 14 日～1 月 28 日・横浜港山下埠頭～海洋研究開発機構（横須賀）
- (7) 調査海域：日向灘
- (8) 調査海域図：



●本航海で回収した OBS。●「かいいい」KR08-16 で回収した OBS。○未回収。

2. 実施内容：

(1) 目的：

本航海は、文部科学省からの受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」の個別研究テーマ「南海トラフ域海域地震探査・地震観測」（平成20年度から受託）の一環として実施した。

南海トラフで繰り返し発生する巨大地震の中には、東海・東南海・南海地震が連動して発生する超巨大地震のケースがあることが指摘されている。このような超巨大地震について、どのような場合に連動あるいは非連動性の巨大地震となるのかを明らかにすることが必要である。さらに超巨大地震の中には、日向灘まで破壊域に含まれる可能性も示唆されており、南海トラフ巨大地震の連動性評価を考える上で、日向灘の地殻構造や地震活動も重要な情報となる。本研究の目的は日向灘での沈み込みに関する詳細な構造のイメージングおよび地震のアスペリティに関する構造を明らかにするためのデータの取得、西南日本の付加体先端部付近で発生している低周波地震や微動を含む地震活動を把握し、沈み込み帯の地殻構造、巨大地震の発生、地震活動の相互関係の解明に資することである。そのために海洋調査船「かいれい」KR08-16航海によって短周期地震計を日向灘に設置し、屈折法・反射法地震探査、反射法地震（MCS）探査および自然地震観測を実施する。本調査ではKR08-16航海によって設置され、調査データの取得および自然地震観測終了後の132台の短周期海底地震計(OBS)の回収を行った。

(2) 実施項目：

1) 短周期海底地震計の回収

「かいれい」KR08-16で2008年12月に設置された160台の海底地震計の内、132台の回収作業を行い、OBS28と130の2台を除く130台を回収した。

2) その他

シービームによる海底地形調査を実施した。